旧宿利原中を活用し 10 カ月ぶりに開催
待望のスクールマルシェ多数来場

10 月 18 日、旧宿利原中跡で４回目となる「やどりはらスクールマルシェ」が開催されました。新型コロナの影響で約 10 カ月ぶりの開催となったマルシェには、感染対策で通常の半分となる 13 店舗が出店。ハロウィンイベントも行われ、仮装した子どもたちが会場を盛り上げていました。主催する笑喜南さんは、「宿利原を知ってもらうイベントとして続けたい」と思いを込めました。

仮装した来場者にはお菓子のプレゼント。アブラメやダンマ（手長エビ）をすくう宿利原地区独自の出店は子どもたちに大好評でした。

「はい自由の女神ポーズ！」と正しい持ち方を楽しく定着させる徳田さん。これまで町内の小学校６校で演奏会や教室を開催しています。

３年目の来町となる奏屋吉豊（かなでやきっと）が演奏披露
３年生向けのリコーダー教室開催

10月14日、リコーダー奏者の徳田豊志さん、ピアニストの日吉直行さんのデュオ「奏屋吉豊」が大根占小と神川小を訪れて演奏を披露しました。演奏会終了後は、４月からリコーダーの授業が始まった３年生向けに教室を開催。なぜ分解できるのか、正しい持ち方など分かりやすく解説した徳田さんは、「入口を間違うと苦手になる。音楽を楽しんでほしい」と願いを込めました。

黄金色に染まった約５アールの水田で収穫体験する原口海輝（かいき）くん。「バインダーを使ったのは初めて。熊本の子どもたちにおいしい新米を届けたい」と笑顔を見せました。

今年で９年目となる復興支援米
大根占小５年生が収穫作業

2011 年に発生した東日本大震災をきっかけに始まった、大根占小児童による復興支援米の収穫が先月 10 日に行われました。５年生の児童 28 名が参加し、バインダーを使っての収穫や天日干し作業を体験。水田管理や収穫指導を務める馬場地区産業部の寺田洋人部長は「生きるために必要不可欠な食。農業を通して命の大切さを実感して」と伝えました。収穫された米は熊本地震で被害を受けた山江村へ届けられます。

連れ添い歩んだ結婚 50 年の大きな節目
夫婦の絆をさらに深めた金婚式

10 月 30 日、結婚 50 年の節目を祝う錦江町合同金婚式が行われ、11 組 22 名が参加しました。大阪万博が行われた年に結婚した参加者へ、当時を振り返る新聞記事や記念品が贈られ、参加者を代表して壱崎紀男さんご夫妻が謝辞を述べました。参加した馬庭登志子さんは、「苦労も多かったが二人で乗り越えてきた。健康で長生きを目標に寄り添って歩きたい」と話しました。

三献（さんこん）の儀で杯を交わし、これまで以上に固い絆を結んだご夫婦。宮内正美さん、キヨさん夫妻は「元気で長生き！」と決意を込めました。

11 月１日、議場を舞台にそれぞれが見つけた夢を大学生と発表。上川路征一郎くんはエネルギー問題をテーマに大人顔負けの発表で沸かせました。

大学生と一緒に探った「叶えたい夢」
８人の子どもたちが議場で夢発表

夢を見つけ、実現に向けた一歩を踏み出してほしいと昨年から始まった「夢発見プログラム」。地域おこし協力隊の井上さんを中心に、鹿児島大学の学生16名と、小学４～６年生８名が３日間の活動を通して夢をまとめました。大根占小５年の川崎莉心（りこ）さんは、「大人を前に不安だったけど大学生が一緒で心強かった。自分が叶えたい夢に気付けた」と緊張しつつも力強く答えました。

大根占銘茶深緑会・田代緑香会がコラボ
２茶業青年団体が緑茶セット寄贈

10 月 13 日、町内２茶業青年団体から大根占茶と田代茶、ティーバッグの３種類を詰め合わせた 6,300 セットが寄贈されました。国の新型コロナ対策事業を活用した取り組みで、約 26,000 セットを作成。今後は、小中学校や福祉施設、イベントなどで広く配布を予定しています。大根占銘茶深緑会の今村和也会長は、「自粛疲れの今こそ、お茶でリラックスを」と話しました。

町では町内全世帯と、姉妹町盟約を結ぶ与論町 2,600 世帯に届けました。大根占の深蒸し、田代の普通煎茶の違いを味わってください。

「国や地域ごとに異なる背景、異なる価値観がある。互いの違いを認め合うことが大事」と語った川越さん。直木賞受賞を祝って花束も贈られました。

松本清張賞・直木賞受賞の川越宗一さん
自信のルーツ錦江町で思いを語る

錦江町生まれの直木賞作家、川越宗一さんのトークショーが10月４日に行われ、約70名が参加しました。新型コロナ対策として、参加者を町内に限り人数を制限し、オンラインで実施。県立図書館の原口泉館長が聞き手を務め、歴史や文化、鹿児島の方言など幅広く語った川越さんは、「帰省のときに見る錦江湾のイメージが小説にも影響している」と思いをにじませました。